村政運営の基本　2次・3次方程式を解けるまちづくりを問う

新政会　鈴木　昇　議員

議員　基本的村政運営の考え方で、今後はこれまでの原発誘致のような1次方程式のまちづくりでなく、2次、3次方程式を解けるまちづくり、直ちに経済的効果は期待できないが、永続性のある社会の創造を考えていきたいとあるが具体的に伺う。

村長　日本国政府自体も減原発、脱原発依存というようなことを申されておりますし、また全国民にも大変原発に対して厳しい世論というものが生まれてきている。その中で原発に依存していくということは先が見えていると私は思っている。

3月4日の朝日新聞「GLOBE」、紙面の中でベルナール・ラポンシュというフランスの核物理学者が書いているが、これからは原発が増えるというようなことは考えられない。いかに80％も原発に依存しているフランスにおいても、進んで受け入れる地域はどこにもないと。原発それ自体が経済的に割に合わなくなってきていると言っている。

その記事の中では、ドイツの電機の世界的なメーカーがある。このジーメンスは福島原発事故後、原発事業から撤退したようです。原発はもうからないというようなことも書いてある。そういうことから、原発に依存していくということについては、もはや先が見えていることも一点です。

原発を誘致すれば金になるということでのイージーなまちづくりということも、これから難しいと思っている。

幸いにして、東海村においては、大強度陽子加速器をはじめ新しい核科学研究の世界的な拠点が生まれようとしている。過去50年における原子力研究開発の基盤を有している。今後、原子力研究開発分野においても、当面福島県内における除染活動や廃炉作業、安全研究という分野での活躍が期待される。また、人材養成ということも喫緊のこれからの課題ということになる。

東海村としては、仮称ですが、原子力センター構想というものをつくって、まちづくりの基本にしていきたいと考えている。

原発を誘致して直ちに金が入るというような簡単な計算でなくて、今後原子力センター構想ということで進めていくことになる。私も説明し切っていないが、難しい対応というか、我々自身が努力していかなければ、このまちづくりができないことになってくるが、そういう点でのことを比喩として1次方程式でなく2次・3次方程式が解けるまちづくり、その基本には村民の協働ということがある。そういう点では、いわゆる直ちに経済的な価値、いわゆるお金ということでなくて、さらにヨーロッパやアメリカの先進地域みたいな形でのまちづくり、いわゆる文化的な価値とか社会的な価値とか、そういうものを追求していきたいと考えている。

その他の質問

- 原子力とまちづくり分野について
- 教育立村を実現する質の高い教育行政について
- 「生きる力」をはぐくむ学校教育について
- 循環型農業について
- 予算規模・税収等について
- 今後の災害復旧復興について